



令和7年度 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

募集要項(6月16日更新)

国立大学法人 鹿児島大学

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム 募集要項

I. 教育プログラムの主旨	・・・・・・・・・・	2
II. 教育プログラムの目的と目標	・・・・・・・・・・	2
III. 募集について		
1. 募集人員	・・・・・・・・・・	3
2. 受講のための資格	・・・・・・・・・・	3
3. 受講料	・・・・・・・・・・	3
4. 受講方法	・・・・・・・・・・	3
5. 受講上の留意点	・・・・・・・・・・	3
IV. 申請手続きについて		
1. 申請期間	・・・・・・・・・・	4
2. 申請方法	・・・・・・・・・・	4
3. 申請内容	・・・・・・・・・・	4
4. 選考方法	・・・・・・・・・・	4
5. 受講決定	・・・・・・・・・・	4
V. 教育プログラムと修了要件について		
1. 開講式・ガイダンス	・・・・・・・・・・	5
2. 開講期間	・・・・・・・・・・	5
3. 総受講時間数	・・・・・・・・・・	5
4. 教育プログラムの構成とレポートについて	・・・・・・・・・・	5
5. 修了要件について	・・・・・・・・・・	5
VI. その他		
1. 履修証明書の発行について	・・・・・・・・・・	5
2. 個人情報の取り扱いについて	・・・・・・・・・・	5
3. 問い合わせ先	・・・・・・・・・・	6
VII. 資料		
1. 科目一覧表	・・・・・・・・・・	7
2. 授業スケジュール	・・・・・・・・・・	8
3. シラバス(講義概要)	・・・・・・・・・・	9-37

『行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム』募集要項

I. 教育プログラムの主旨

奄美群島（奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島）では、2016年に奄美群島国立公園が誕生し、管理方針として日本で初めて「生態系管理型」と「環境文化型」という新しい考え方が示された。また、2021年には、奄美大島と徳之島が世界自然遺産に登録された。これらの動きは、奄美の自然を守るということに留まらず、奄美群島の地域特性（自然・地理、歴史、文化等の特徴）のもつ固有の価値と潜在力が認められたことを意味する。

一方、奄美群島、および、群島を構成する各市町村は、この好機を自然保護や観光だけでなく、その他の産業、教育、福祉、地域政策等の多領域において、十分生かし切れているだろうか。

2024年に策定された奄美群島成長戦略ビジョン2033の基本理念では、「つなぐ宝」、「稼ぐ力」、「支える基盤」を3つの軸に、自然と文化を守り受け継ぐとともに、仕事の創出に重点を置いた産業振興を目指すこととしている。時流を好機として受け止め、奄美群島の自立的発展をめざす構想・計画はすでにある。今後は、これらの方針を各市町村の個性に基づき実行に移し、奄美群島全体の力にして、群島民が幸せに暮らしていける条件を整えていくことが求められる。この計画を執行する責任を任せられた各市町村の行政職員への期待は大きい。

この教育プログラムは、政策集団として大きな期待と使命を持つ行政職員の仕事を支えるべく、「交流」と「学習」を軸にして、奄美群島に固有の価値を（自然・地理、歴史、文化等の特徴）を具体的な行政施策に落とし込んでいくための手がかりをえるために実施するものである。

II. 教育プログラムの目的と目標(期待される修得可能な能力、学修成果)

1. 身に付けられる知識、技術、技能

- ・奄美群島の魅力や地域特性（自然・地理、歴史、文化等の特徴）を捉えるために必要な奄美〈環境文化〉の考え方とその基礎的な知識を身につける。
- ・奄美〈環境文化〉の理解の深め方と、それを行政の仕事（企画・産業・福祉・教育・地域政策等の複数領域）に結びつけるための考え方と知識を身につける。
- ・島内外、自治体行政内外の関係機関や団体、人を知り、協働に必要な考え方や知識を身につける。

2. 得られる能力

- ・奄美〈環境文化〉の考え方をを用いて、出身の島や自治体の魅力や地域特性（自然・地理、歴史、文化等の特徴）について説明し、共感や協力を得る能力。
- ・島の資源としての奄美の〈環境文化〉の価値を発見し、その価値を行政施策に生かすことのできる政策集団としてのマインドと企画・立案能力
- ・他の島や自治体を取り巻く現状と課題を共有し、連携のあり方を交流と学習を通して探ることのできる能力

Ⅲ. 募集について

1. 募集人員 36 名 ※12 市町村より各 3 名
2. 受講のための資格 以下の①～③の条件を満たす者 ※年齢や職歴は不問
 - ① 奄美群島 12 市町村の行政職員
 - ② 開講する科目のすべての授業（現地実習含む）を受講できる者
 - ③ 学んだことを仕事に生かすことを目的とする者
3. 受講料 70,000円
 - ・ 実習に係る旅費及び保険料等が別途必要です。
 - ・ 現地までの交通手段及び宿泊場所は、各自で手配してください。
4. 受講方法
 - ・ e-learning 学習管理システム『eden』（<https://eden.ac/>）を利用します（各種連絡等の案内も含む）。受講生には、ID とパスワードを発行します。
 - ・ 受講形態には、以下の4つの形態があります。

受講形態	説明
① 動画視聴型授業	予め動画に記録された講義動画を受講生が好きな時間に視聴する講義形態。一つの動画は、概ね5分～10分程度で、隙間時間に視聴できるように工夫されています。
② オンライン双方向授業	講師と受講生、受講生同士がオンライン上で、意見交換しながら受講する講義形態（WEB 会議システム Zoom もしくはMicrosoft teamsを使います）。
③ 対面授業*	指定された会場において、講師と受講生が直接会って実施する講義形態。具体的は、2 日～3日間連続で実施する現地実習のことを指す。
④ 島集合授業	指定された会場において、受講生が直接会って実施する講義形態。具体的には、5つ島を会場にオンラインでつなぐ講義（修了課題兼修了生等交流会）のことを指す。

*台風等の影響により実施が困難な場合は、延期、もしくは、中止する場合もあります。

5. 受講上の留意点

受講にあたっては、以下の条件を満たす必要があります。

- ・ インターネット環境が整っている（データ通信料は無制限が望ましい）。
- ・ 講義の時間帯にインターネットに接続し、使用できるパソコンやタブレット端末がある（スマートフォンの使用は推奨しない）。
- ・ 受講に当たってのルールを順守できる。

IV. 申請手続きについて

1. 申請期間

令和7年6月2日(月)10時から、令和7年6月9日(月)16時まで

2. 申請方法

- ①所属する市町村の担当者に事前にお申し出ください。
- ②申請期間に下記のWEB版「受講申込フォーム」より申請ください。

3. 申請内容

WEB版「受講申込フォーム」必要事項を記入してください。

URL:<https://kadai-amami-learning.jp>



申請内容	詳細
1) 申込者情報	・氏名(フリガナ)、年齢 ・所属自治体、所属部局課・職位 ・電話番号1(職場)、電話番号2(携帯) ・メールアドレス(個人用)
2) 受講について	☐受講希望理由
3) 推薦について	・所蔵自治体の推薦の有無
4) 受講環境	☐使用予定のパソコン・タブレット等(職場、又は、個人) ・通信環境(光回線ケーブル/ADSL/モバイル Wi-Fi/その他)

4. 選考方法

受講者の選抜は、受講資格を満たしているかを確認のうえ決定します。定員を超える応募があった場合は、所属自治体の推薦を優先いたします。

5. 受講決定

令和7年6月20日(金)以降に申請者本人に仮通知をメールで配信します。正式の通知案内は、7月上旬を予定しています。

V. 教育プログラムと修了要件について

1. 開講式・ガイダンス 令和7年7月10日(木) 13時～ オンライン開催

※終了後に第1回の講義があります。

2. 開講期間 令和7年7月10日(木)～令和8年2月27日(金)

3. 総受講数 70時間(基礎科目38時間+実習科目32時間)

4. 教育プログラムの構成とレポートについて

本教育プログラムは、下記の6つの科目群より構成されています。各科目群の理解を助けることを目的にアンケート形式のレポート課題を課します。

科目群	①動画視聴	②オンライン双方向	③対面	④島集合	合計(時間数)
1. 環境文化の創造と協働形成	0	5.5	0	3	8.5
2. 自然から読み解く環境文化	3.5	3	0	0	6.5
3. 文化と歴史から読み解く環境文化	4	3	0	0	7
4. 環境文化実習	0	3	32	0	35
5. 地域分析の基礎	1.5	1.5	0	6	9
6. 環境文化と行政施策をつなぐ	4	0	0	0	4
合計(時間数)	13	16	32	9	70
合計(科目数)	11	10	2	5	

5. 修了要件について

環境文化実習を除く科目の総時間数の8割以上を受講し、科目群ごとに定めるレポート課題に取り組み、合格基準を満たすこと、かつ、環境文化実習を一つ以上受講すること。なお、オンライン双方向授業を欠席した場合は、記録動画を視聴し、指定する代替課題を適切に提出すれば(ただし総時間数の5割を上限とします)受講したと認めます。

VI. その他

1. 履修証明証書の発行について

修了要件を満たした者には、履修証明書を発行し、後日発送します(鹿児島大学の特別の課程における履修証明プログラムに関する規則)。

2. 個人情報の取り扱いについて

申請に際し、記入いただいた個人情報は、受講申請の確認、連絡、名簿作成、受講期間中の修学支援、研修時の保険加入、受講者の統計以外の目的に使用いたしません。

3. 問い合わせ先

(1) 鹿児島大学

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30

国立大学法人鹿児島大学 法文学部 奄美教育プログラム事務局

Tel: 099-285-3573 Fax: 099-285-3573

manabi@leh.kagoshima-u.ac.jp

(2) 各市町村

島	自治体	部署	担当
奄美大島	奄美市		
	龍郷町	総務課	里園 正登志
	瀬戸内町	総務企画課	勝田 忠広
	大和村	総務課	市田 晋太郎
	宇検村	総務課	森 なぎさ
喜界島	喜界町	総務課行政管理室	永井 昌徳
徳之島	天城町	総務課	宇都 克俊
	徳之島町	総務課	峰岡 真子
	伊仙町	総務課	寶永 英樹
沖永良部島	和泊町	総務課	朝戸 博
	知名町	総務課	神川 豪
与論島	与論町	総務企画課	町 聡志

Ⅶ. 資料

1. 科目一覧表

科目群	科目番号	科目名	時間数	講義形態	開催日	時間	講師	講師の所属
環境文化科目群 創造と	101	奄美の環境文化入門	1.5	オンライン双方向	7/10(木)	14:00-15:30	小栗有子	鹿児島大学法文学部
	102	生涯学習支援論 －対話型ファシリテーション	2	オンライン双方向	10/7(火)	13:00-15:00	酒井祐輔	鹿児島大学法文学部
	103	社会教育経営論 －協働形成	2	オンライン双方向	10/21(火)	13:00-15:00	小栗有子	鹿児島大学法文学部
	104	修了課題兼修了生等交流会	3	島集合(対面)	2/8(日)	13:30-16:30	高梨 修 小栗有子	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部
自然環境から 目文読み解く	105	奄美の環境文化の基礎1 －奄美群島の自然的環境の特性	1.5	動画視聴	7/10(木)-8/11(月)	－	高梨修	鹿児島大学法文学部客員研究員
	106	奄美の地形から島の生い立ちを読む	1.5	オンライン双方向	7/23(水)	13:00-14:30	井村隆介	鹿児島大学共通教育センター
	107	奄美の環境文化を支える基盤1 －水の生態系	1	動画視聴	7/23(水)-8/11(月)	－	山本智子	鹿児島大学水産学部
	108	奄美の環境文化を支える基盤2 －森の生態系	1	動画視聴	7/23(水)-8/11(月)	－	鶴川 信	鹿児島大学農学部
	109	行政・環境文化総合討論1	1.5	オンライン双方向	8/11(月)	13:00-14:30	高梨 修 小栗有子	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部
文化と歴史から 環境文化を読み解く	110	奄美の環境文化の基礎2 －奄美群島の歴史的環境の特徴	1.5	動画視聴	8/11(月)-9/8(月)	－	高梨 修	鹿児島大学法文学部客員研究員
	111	行政・環境文化総合討論2	1.5	オンライン双方向	9/8(月)	13:00-14:30	高梨 修 小栗有子	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部
	112	奄美の環境文化の基礎3 －環境文化概念と奄美群島の文化的様相	1.5	動画視聴	9/8(月)-9/29(月)	－	高梨 修	鹿児島大学法文学部客員研究員
	113	奄美群島の文化財の生かし方 －奄美のシマ遺産	1	動画視聴	9/8(月)-9/29(月)	－	久 伸博	元奄美市立奄美博物館
	114	行政・環境文化総合討論3	1.5	オンライン双方向	9/29(月)	13:00-14:30	高梨 修 小栗有子	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部
環境文化科目群 実習	115	行政・奄美環境文化総合討論4	1.5	オンライン双方向	11/3(月)	13:00-14:30	高梨 修 小栗有子	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部
	116	奄美環境文化実習1(奄美大島)	16	現地実習	11/15(土)-11/16(日)	終日*	高梨 修 新元一文 小栗有子	鹿児島大学法文学部客員研究員 一般社団法人巡めぐる恵めぐる 鹿児島大学法文学部
	117	行政・奄美環境文化総合討論5	1.5	オンライン双方向	12/5(金)	13:00-14:30	高梨修 小栗有子	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部
	118	奄美環境文化実習2(沖永良部島)	16	現地実習	1/24(土)-1/25(日)	終日*	高梨 修 伊地知裕仁 小栗有子	鹿児島大学法文学部客員研究員 和泊町歴史民俗資料館 鹿児島大学法文学部
地域分析の基礎 科目群5	119	持続可能な地域経営1 －人口の安定するシミュレーション	1.5	島集合(対面)	7/12(土)	13:00-14:30	藤山 浩	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所所長
	120	持続可能な地域経営総合討論1	1.5	島集合(対面)	7/12(土)	14:45-16:15	藤山 浩 小栗有子	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所所長
	121	持続可能な地域経営2 －所得を取り戻す地域内循環	1.5	島集合(対面)	12/20(土)	13:00-14:30	藤山 浩	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所所長
	122	持続可能な地域経営総合討論2	1.5	島集合(対面)	12/20(土)	14:45-16:15	藤山 浩 小栗有子	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所所長
	123	地域博物館と自治体誌の活用	1.5	動画視聴	12/20(土)-1/15(木)	－	高梨 修 農中 至	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部
	124	地域博物館と自治体誌活用総合討論	1.5	オンライン双方向	1/15(木)	13:00-14:30	高梨 修 農中 至	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部
環境文化と行政 施策をつなぐ 科目群6	125	環境文化から考える福祉	1	動画視聴	11/17(月)-1/15(木)	－	小栗有子ほか	実務家インタビュー・対談
	126	環境文化から考える観光まちづくり	1	動画視聴	11/17(月)-1/15(木)	－	小栗有子ほか	実務家インタビュー・対談
	127	環境文化から考える地域	1	動画視聴	11/17(月)-1/15(木)	－	小栗有子ほか	実務家インタビュー・対談
	128	環境文化から考える奄美振興開発	1	動画視聴	11/17(月)-1/15(木)	－	小栗有子ほか	実務家インタビュー・対談
		合計	70	70時間	*平日と休日の二つの選択肢を設けることもある。			

2. 授業スケジュール

7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
動画視聴										105													107 108								
オンライン双方向										101													106								
島集合（対面）											科目群1												科目群2								
8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
動画視聴											110																				
オンライン双方向											109																				
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
動画視聴										112 113																					
オンライン双方向											111																				
対面											科目群3																				
10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
動画視聴																															
オンライン双方向											102												103								
対面											科目群1												科目群1								
11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
動画視聴																		125~128													
オンライン双方向																															
対面																															
12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
動画視聴																							123								
オンライン双方向																															
島集合（対面）																															
1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
動画視聴																															
オンライン双方向																															
対面																															
2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28			
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土			
動画視聴																															
オンライン双方向																															
島集合（対面）																															

3.シラバス(講義概要)

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群1	奄美環境文化の創造と協働形成				
科目番号	101	科目名	奄美の環境文化入門	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授				
目的・内容	この講義は、奄美群島12市町村に行政職員として働く者にとって、70時間におよぶ行政・奄美〈環境文化〉教育プログラムを受講することの意味がどこにあるのかについて、次に示す情報を提供しながら参加者と考え、共有・確認することを目的とします。 ① 「環境文化」概念が登場する背景と奄美群島にとっての意味 ② 「環境文化」をめぐるこれまでの取組(成果・課題) ③ カリキュラムの構成と特徴				
受講方法	☒オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。(ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	・養老孟司・C・W ニコル・兼高かおるほか『屋久島 知の巨人たち ムック』キルティ株式会社、2022 ・鹿児島大学鹿児島環境学研究会『奄美大島 100 人の環境文化』南方新社、2025				
自己紹介	専門は、社会教育学と環境教育学です。社会環境だけでなく、自然環境との関わりが人の成長(自己形成)に与える作用について奄美をフィールドに研究しています。2010年より奄美群島の自然と人々との調和ある暮らしの創造に向けて共同研究や学習機会の創出に取り組んでいます。活動の一端は、次に紹介されています。https://kagoshima-kankyogaku.com/				
受講生へ一言	公私ともに忙しい中で、今回のプログラムを受講頂きありがとうございます。奄美の「環境文化」は、漠然と感じる「あまみらしさ」(島の名前や集落の名前に置き換えるのもよし)の正体を突き詰め、これからの島・シマづくりの方向性を考え、実践していく際に有効な考え方と方法を与えてくれます。現場のリアルな問題をどのように考え、どう取り組んでいけばよいのか、多くの仲間や講師らと一緒に考え、現実をとともに変えていけるようにしましょう！				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群1	奄美環境文化の創造と協働形成				
科目番号	102	科目名	生涯学習支援論 -対話型ファシリテーション	時間数	2時間
担当講師	酒井 祐輔				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	講義の目的は、奄美の「環境文化」について地域から学ぶためのその方法や理論について、「傾聴」や「対話」、「ファシリテーション」等のキーワードから掘り下げて考えます。講義ではグループワークを行うため、ビデオカメラ機能をオンにし、声を出することができる環境での受講をお願いします。				
受講方法	☒ オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	・パウロ・フレイレ『伝達か対話かー関係変革の教育学』亜紀書房、1982。 ・東山紘久『プロカウンセラーの聞く技術』創元社、2000。 ・中田豊一『対話型ファシリテーションの手ほどき』ムラのミライ、2015。 ・ケネス・J・ガーゲン、メアリー・ガーゲン『現実はいつも対話から生まれる』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018。 ・安斎勇樹・塩瀬隆之『問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社、2020。 ・ケイト・マーフィ(篠田真貴子監訳・松丸さとみ訳)『LISTEN——知性豊かで創造力がある人になれる』日経 BP、2021。 ・石岡丈昇『エスノグラフィ入門』筑摩書房、2024。				
自己紹介	大学では「社会教育実習Ⅱ」、「多文化共生の地域づくり」「地域づくりとNPO」等の授業を担当しています。学外では、鹿児島県社会教育委員や出水市多文化共生推進協議会委員等を務めています。				
受講生へ一言	受講いただく皆さんの奄美に関する課題意識や、環境文化の価値に対する思いから多くを学ばせていただきたいと思います。よろしくお願いします。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群1	奄美環境文化の創造と協働形成				
科目番号	103	科目名	社会教育経営論-協働形成	時間数	2時間
担当講師	小栗 有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授				
目的・内容	講義の目的は、ここまでの奄美の「環境文化」に関する学びを受けて、行政職員としてこれらの学びを住民にフィードバックしていくための施策として、それらを策定・実施・評価していく際に必要となる協働形成の考え方について理解することです。講義では、社会教育経営論という観点から社会教育の理念や成人学習者の理論を取り上げ、価値観や考え方の異なる他者との折り合いのつけ方や、住民と行政との望ましい関係づくりを考え、行政組織を学習する組織にしていくことの課題と可能性について考えます。				
受講方法	☒ オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。(ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	山本珠美・熊谷慎之輔・松橋義樹『社会教育経営の基礎』学文社、2021 渡邊洋子『新版 生涯学習時代の成人教育学』明石書店、2023 加留部貴行『参加したくなる会議のつくり方』ぎょうせい、2021 吉本哲郎『地元学を始めよう』岩波ジュニア新書、2011(2008) 結城登美雄『地元学からの出発』農文協、2009				
自己紹介	自己紹介は 101 と同じ。				
受講生へ一言	頭で理解できても、それを実践にどのように落としていくかの間には、ギャップがあることも少なくありません。プログラムを通して学んできたことを次の一歩につなぐために一緒に考えていきましょう。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群1	奄美環境文化の創造と協働形成				
科目番号	104	科目名	修了課題兼修了生等交流会	時間数	3 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
所属・職名	鹿兒島大学法文学部法経社会学科・教授 鹿兒島大学法文学部附属「鹿兒島の近現代」教育研究センター・客員研究員				
目的・内容	本講義の目的は、本プログラム全体を通して各自が学んできたことを出身の各島・自治体間で確認・共有するとともに、その学びを次の実践につないでいくために行政職という枠を超えて、多様な職種や分野、異なる立場や年齢をもつ者たちと出会うことです。当日は、各自、もしくは、チームで、今回学んだことの生かし方について報告し、過去に奄美〈環境文化〉教育プログラムを学んだ者たちも参加して、フィードバックをし合いながら学習・交流します。				
受講方法	☒ 島集合(対面)授業 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の 5 つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5 つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	川嶋直『KP法 シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション』みくに出版				
自己紹介	101に同じ				
受講生へ一言	本プログラム最後の科目・島集合(対面)授業です。皆さんが学んできた奄美〈環境文化〉について同じように学び、アメンバーのように縦横無尽につながり、すでに各方面で活動しているメンバーが参集します。新たな出会いを通して、皆さんのこれからの活動の糧になっていくことを願っています。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群2	自然から読み解く環境文化				
科目番号	105	科目名	奄美の環境文化の基礎1 －奄美群島の自然的環境の特性	時間数	1.5 時間
担当講師	高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 元奄美市立奄美博物館・館長				
目的・内容	講義の目的は、奄美群島をめぐる独特の「環境」の総合的理解を図り、その特徴をよく理解して、観光・産業領域や教育・福祉領域等に貢献できる付加価値化、地域資源確認の視点等を身につけることです。そのための方法論として、「環境文化」という概念を理解しながら、奄美群島各島について総合的に解説していきます。「科目 105」では、奄美群島の自然的環境について、気候・地形・水環境等の暮らしの基盤の諸相を概観しながら、各島における自然的環境と人の暮らしの関わりについて考えていきます。				
受講方法	☒ 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、全部で 25 本(各5分～15 分程度)あります。関心のあるテーマから自由に選択し、期間内(行政・環境文化総合討論1の前まで)に、総時間数 1.5 時間以上を視聴してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	・奄美市立奄美博物館編、『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、南方新社、2021 年 ・小野寺浩、『世界遺産 奄美』、南方新社、2022 年 ・小野寺浩、「文化環境論という考え方―奄美という地域について―」、『スタディレポート』No.14、プレック研究、2009 年 http://www.prec.co.jp/research/report/pdf/14008.pdf				
自己紹介	博物館学芸員として、奄美群島はどのような地域なのか、その自然・歴史・文化を総合的に解説する仕事をしてきました。その一端はこちらでもご覧になれます。 YouTube 奄美博物館公式チャンネル https://x.gd/sb6n5 奄美・沖縄地域をフィールドとしながら、国文学→歴史学・博物館学→心理学と領域を拡げながら奄美の勉強をしてきました。				
受講生へ一言	奄美大島・徳之島が、世界自然遺産に登録されましたが、奄美群島はこの 2 島ですべて語れるわけではありません。個性ある 8 島の特徴をよく理解していただいて、これからの時代の地域デザイン(行政施策)に参考になることがあれば幸いです。環境文化論はあなたが暮らす地域が主役です。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群2	自然から読み解く環境文化				
科目番号	106	科目名	奄美の地形から島の生い立ちを読む	時間数	1.5 時間
担当講師	井村 隆介				
所属・職名	鹿児島大学共通教育センター・准教授				
目的・内容	奄美群島の豊かな自然環境は一朝一夕にできたものではなく、そこにいる生物も含めて長い時間をかけてつくられてきたものです。奄美の人々の暮らし、文化や伝統もそれらを背景に育まれてきたものです。この講義では、みなさんがふだん見慣れている地形や風景から、奄美群島の島の生い立ちを読み解くことをしてみたいと思います。				
受講方法	☒ オンライン双方授業 ZOOM アプリを使ったりリアルタイム同時配信授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	井村隆介(2010)奄美諸島の地形を読む,「鹿児島環境学 II」鹿児島大学鹿児島環境学研究会(編), 南方新社. 尾方隆幸・井村隆介(2018)琉球弧の地形,「奄美群島の野生植物と栽培植物」鹿児島大学生物多様性研究会(編), 南方新社.				
自己紹介	鹿児島大学共通教育センター准教授。1964 年大阪府生まれ。鹿児島大学理学部、東京都立大学大学院で学ぶ。博士(理学)東京都立大学。 専門は地質学。大学で地形学・災害地質学などを教えながら、人間の時間・空間スケールで見た地震と噴火現象の研究、自然災害で死なないための研究を続ける。				
受講生へ一言	奄美群島の地形・地質の特徴とその生い立ちについて、それぞれの島々を比較しながら考えてみましょう。明日から、その風景の見え方が変わってくるはずです。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群2	自然から読み解く環境文化				
科目番号	107	科目名	奄美の環境文化を支える基盤 1 ー水の生態系	時間数	1 時間
担当講師	山本 智子				
所属・職名	鹿児島大学水産学部・教授				
目的・内容	講義の目的は、海岸の様々な場所に生息する生物を通して、奄美における陸と海の関係性を俯瞰することです。 講義では、①黒潮が奄美群島の気候と森林植生に与える影響、 ②河川の影響を受ける沿岸生態系とそこに生息する生物の特徴、 ③沿岸生態系を維持する仕組み(生物相を中心に)とその危機、 についてお話しします。				
受講方法	☒動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、10分程度の動画が5～7本あります。期間内(行政・環境文化総合討論1の前まで)に視聴してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	『奄美大島の水生生物』鹿児島大学生物多様性研究会 南方新社、2019 『南西諸島の生物多様性、その成立と保全』日本生態学会編 南方新社、2015				
自己紹介	専門は動物生態学で、様々な生態系において複数種の集まり「群集」が、その環境とどのように関わって成立しているのかを明らかにする研究を行っています。 奄美では、マングローブや干潟を調査地として、移動力の少ない底生動物(貝類や甲殻類などの無脊椎動物)を中心に、野外での調査を行っています。				
受講生へ一言	奄美の海岸と言えばサンゴ礁が代表的ですが、より浅い場所では、陸域と海域のつながり生物たちの営みが見られます。河川の多い奄美大島では重要な生態系ですが、一方で、人間による活動の影響を受けやすい場所でもあります。このような場の価値に少しでも目を向けて頂ければ幸いです。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群2	自然から読み解く環境文化				
科目番号	108	科目名	奄美の環境文化を支える基盤2 －森の生態系	時間数	1 時間
担当講師	鵜川 信				
所属・職名	鹿児島大学農学部・准教授				
目的・内容	講義の目的は、奄美の森林生態系の概要説明を通して、奄美の自然の価値とその可能性について理解を深めることです。講義は、①奄美の森林生態系の成り立ち、②普遍的価値としての固有種の存在、③固有種の保全と人々の暮らしの3つに焦点を当てて森林生態系の説明を行います。				
受講方法	☒ 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、各10分程度の動画が6本あります。関心のあるテーマから自由に選択し、期間内(行政・環境文化総合討論1の前まで)に、総時間数 1 時間以上を視聴してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	特にありません。				
自己紹介	専門は、森林生態学と育林学です。森林に生育する樹木の生態や物質循環、人工林の造成について研究しています。奄美・徳之島では、2012 年から研究をスタートし、森林の維持機構や希少種の生息環境、外来種の駆除方法について研究を進めてきました。また、2020 年より、奄美大島の世界自然遺産地域における自然環境モニタリングシステムの構築に携わっています。				
受講生へ一言	奄美の森林生態系は、固有種の存続に欠かせないものであるとともに、水や空気など多くの天然資源を地域にもたらしてくれます。これらの自然を守り、一方で、利用し、共生していくことが地域の未来、そして、人間社会の未来に繋がる取り組みになります。奄美の森林生態系を基盤とした社会創成の可能性を皆さんと探し、話し、共有できることを楽しみにしています。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群2	自然から読み解く環境文化				
科目番号	109	科目名	行政・奄美環境文化総合討論1	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員				
目的・内容	本講義は、科目群「自然から読み解く環境文化」(科目 105～108)の受講を踏まえた総合講義です。講義の目的は、関連科目について理解を深め、内容の定着をはかることです。講義では、事前に提出のあったレポートを踏まえて関連科目の補足説明を行いつつ、受講生同士で感想や意見の交換を行いながら、共通理解を高めます。				
受講方法	☒ オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	科目 105～科目 108 を事前に視聴しておくようにしてください。				
自己紹介	科目110と科目 105 に同じ				
受講生へ一言	視聴した動画について、奄美群島全域から集まる行政職員同士で、講師も交えながらオンライン上で話し合える貴重な時間です。リアルタイムでぜひ参加できるようにしましょう！				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群3	文化と歴史から読み解く環境文化				
科目番号	110	科目名	奄美の環境文化の基礎2 －奄美群島の歴史的環境の特性	時間数	1.5 時間
担当講師	高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 元奄美市立奄美博物館・館長				
目的・内容	講義の目的は、奄美群島をめぐる独特の「環境」の総合的理解を図り、その特徴をよく理解して、観光・産業領域や教育・福祉領域等に貢献できる付加価値化、地域資源確認の視点等を身につけることです。そのための方法論として、「環境文化」という概念を理解しながら、奄美群島各島について総合的に解説していきます。「科目 110」では、奄美群島の歴史的環境について、旧石器時代から現代まで、約 3 万年にわたる歴史を通時的に辿りながら、日本歴史を理解する上で欠かせないとされる奄美群島の歴史の特徴を考えていきます。				
受講方法	☒ 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、全部で 25 本(各5分～15 分程度)あります。関心のあるテーマから自由に選択し、期間内(行政・環境文化総合討論2の前まで)に、総時間数 1.5 時間以上を視聴してください。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	・奄美市立奄美博物館編、『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、南方新社、2021 年 ・松下志朗・下野敏見編、街道の日本史 55『鹿児島の湊と薩南諸島』、吉川弘文館、2002 年				
自己紹介	科目 105 に同じ				
受講生へ一言	科目 105 に同じ				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群3	文化と歴史から読み解く環境文化				
科目番号	111	科目名	行政・奄美環境文化総合討論2	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員				
目的・内容	本講義は、「奄美の環境文化の基礎2-奄美群島の歴史的環境の特徴から読み解く環境文化」(科目 110)を中心にこれまで受講した内容を踏まえた総合講義です。講義の目的は、関連科目について理解を深め、内容の定着をはかることです。講義では、事前に提出のあったレポートを踏まえて関連科目の補足説明を行いつつ、受講生同士で感想や意見の交換を行いながら、共通理解を高め合います。				
受講方法	☒ オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	科目 101、科目 105、科目 119～122について事前に視聴しておくようにしてください。				
自己紹介	科目101と科目 105 に同じ。				
受講生へ一言	視聴した動画について、奄美群島全域から集まる行政職員同士で、講師も交えながらオンライン上で話し合える貴重な時間です。リアルタイムでぜひ参加できるようにしましょう！				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群3	文化と歴史から読み解く環境文化				
科目番号	112	科目名	奄美の環境文化の基礎3－環境文化 概念と奄美群島の文化的様相	時間数	1.5 時間
担当講師	高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 元奄美市立奄美博物館・館長				
目的・内容	講義の目的は、奄美群島をめぐる独特の「環境」の総合的理解を図り、その特徴をよく理解して、観光・産業領域や教育・福祉領域等に貢献できる付加価値化、地域資源確認の視点等を身につけることです。そのための方法論として、「環境文化」という概念を理解しながら、奄美群島各島について総合的に解説していきます。「科目 112」では、奄美群島の文化的環境について、その等質性と異質性に注意して概観しながら、それぞれの島で暮らしているみなさんの立ち位置を確認して、自分たちの島の環境文化の特徴について考えていきます。				
受講方法	☒ 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、全部で 25 本(各5分～15 分程度)あります。関心のあるテーマから自由に選択し、期間内(行政・環境文化総合討論1の前まで)に、総時間数 1.5 時間以上を視聴してください。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	・奄美市立奄美博物館編、『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、南方新社、2021 年 ・基俊太郎、『島を見直す』、南海日日新聞社、1993 年 ・高梨修、「レジリエンス生み出す奄美群島の「環境」」、第 60 回記念黎明館企画特別展図録『ほこらしゃ奄美 海と山の織り成すシマの世界』、鹿児島県歴史・美術センター黎明館、2021 年(希望者には PDF 版をお渡しします)				
自己紹介	科目 105 に同じ				
受講生へ一言	科目 105 に同じ				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群3	文化と歴史から読み解く環境文化				
科目番号	113	科目名	奄美群島の文化財の生かし方 －奄美のシマ遺産	時間数	1 時間
担当講師	久 伸博				
所属・職名	元奄美市立奄美博物館・館長				
目的・内容	この講座では、奄美群島は、どのような自然的環境や地理的環境があり、どのような歴史を辿り、どのような文化が醸成されてきたのか。奄美の自然・歴史・文化を理解するために欠かせない文化遺産群の理解を深めることを目的としています。				
受講方法	☒ 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、全部で 5～7 本(各 5 分～12 分程度)あります。関心のあるテーマから自由に選択し、期間内(行政・環境文化総合討論3の前まで)に、総時間数 1 時間以上を視聴してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	・『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、奄美市立奄美博物館編、南方新社、2021 年 ・『琉球弧の視点から』島尾敏雄、講談社、1969 年 ・『沖縄・奄美と日本』谷川健一・大山麟五郎・高良倉吉、同成社、1986 年 ・『古代・中世の境界領域』池田榮史、高志書院、2008 年 ・『琉球の成立』吉成直樹、南方新社、2011 年 ・『薩摩侵攻 400 年未来への羅針盤』琉球新報社・南海日日新聞社編、琉球新報社、2011 年 ・『奄美復帰史』村山家国、南海日日新聞社、1971 年 ・『奄美の暮らしと儀礼』田畑千秋、第一書房、1992 年 ・『奄美の民俗』田畑英勝、法政大学出版局、1976 年 ・『奄美の文化』島尾敏雄編、法政大学出版局、1976 年 ・『奄美生活誌』恵原義盛、木耳社、1973 年 ・『島を見直す』基俊太郎、南海日日新聞社、1993 年ほか、奄美に関する自然・歴史・文化に関する図書				

自己紹介	1960 年生まれ、両親は大島郡喜界町荒木出身。主に龍郷町で育つ。 1984 年 3 月、岡山理科大学基礎理学科人類学コースを卒業 1985 年 7 月、名瀬市(現奄美市)職員(学芸員)として採用。 1987 年 7 月、名瀬市立奄美歴史民俗資料館(現奄美市立奄美博物館)開館。 2021 年 3 月、奄美市職員(奄美市立奄美博物館)を定年退職 35 年 9 か月の勤務で主に民俗分野を中心に担当。併せて地域の自然や歴史的な背景から地域の文化、文化の変遷について学びを深め、地域の課題解決や地域活動の活性化に役立てていきたいと考えています。
受講生へ一言	奄美群島の非常に複雑な歴史的な背景や自然環境、地理的な環境を理解しながら地域の事を知り、地域課題の解決及び地域活動の活性化などの手掛かりを探していくことに役立つことを願っています。 先人たちが遺した断片的な事象(文化遺産)にどのような情報があるのか、引き出していく(点と点を線に、そして面としてストーリー作りをしていく)ことに努めていきたいと考えています。 当事者意識を持ちながら、地域の自然や歴史、文化についての理解を図り、各地域・各部署での施策計画や事業推進をしていただくことを願っています(近年、各種施策の計画や事業推進においてコンサルなど外部任せが非常に多く、自分たちの地域に対しての当事者意識の希薄さを懸念しています)。

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群3	文化と歴史から読み解く環境文化				
科目番号	114	科目名	行政・奄美環境文化総合討論3	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員				
目的・内容	本講義は、「奄美の環境文化の基礎3-環境文化概念と奄美群島の文化的様相」(科目 112)および「奄美群島の文化財の生かし方-奄美のシマ遺産」(科目 113)を中心にこれまで受講した内容を踏まえた総合講義です。講義の目的は、関連科目について理解を深め、内容の定着をはかることです。講義では、事前に提出のあったレポートを踏まえて関連科目の補足説明を行いつつ、受講生同士で感想や意見の交換を行いながら、共通理解を高め合います。				
受講方法	☒ オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく と授業の理解の手 助けになる図書	科目 112と科目113を事前に視聴しておくようにしてください。				
自己紹介	科目110と科目 105 に同じ。				
受講生へ一言	視聴した動画について、奄美群島全域から集まる行政職員同士で、講師も交えながらオンライン上で話し合える貴重な時間です。リアルタイムでぜひ参加できるようにしましょう！				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群4	環境文化実習				
科目番号	115	科目名	行政・奄美環境文化総合討論4	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員				
目的・内容	本講義は、「奄美環境文化実習1(奄美大島)」(科目 116)に向けた事前学習です。講義では、これまで学んできた科目群1～科目群3の内容を振り返り、「奄美環境文化実習1」の目的、内容、方法等について確認することを目的とします。講義では、講師の解説に加えて、受講生同士の意見交換を通して、実習に期待することや留意すべき点等について共通理解をはかります。				
受講方法	☒ オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	これまでの講義、特に科目 105、科目110、科目112の「奄美の環境文化の基礎」シリーズ、および、科目 102「生涯学習支援論」と科目 103「社会経営論」について復習しておくといでしょう。				
自己紹介	科目110と科目 105 に同じ				
受講生へ一言	奄美環境文化実習に臨む直前のオンライン双方の授業となります。実習の目的や内容の詳細のほかに、当日の集合や解散時間等のスケジュールについても確認しますので、ぜひ参加するようにしてください。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群4	環境文化実習				
科目番号	116	科目名	奄美環境文化実習1(奄美大島)	時間数	16 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修 ・ 新元 一文				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 社団法人巡めぐる恵めぐる・代表理事				
目的・内容	実習の目的は、座学の講義で修得した〈環境文化〉に関する学知(学際的な知識/科学知)を実際に島に訪れて、身体感覚をもって確認し、〈環境文化〉理解の深め方と生かし方について実地で学ぶことです。実習では、今後の行政施策という観点から、〈環境文化〉の価値を理解し、その生かし方について、島・シマ毎の個性を踏まえたうえで、共通の課題や連携の在り方についても模索します。 実習では、目に見えない世界である島民の心性に触れながら、次の事柄を体験的に学習します。①島・シマの自然の地理特性と歴史を知る、②生きた環境文化を体験する、③人と出会う(想いを知る)、④想いや考え・学びを共有する。また、環境文化は、過去のみを継承するだけでなく、現代に合わせて創造していくことが求められており、島・シマがこれから考えていくべき課題や論点を取りあげ、受講生が島民と共に考える機会を用意します。				
受講方法	☒ 対面授業 現地集合、現地解散となります。移動手段や宿泊は、各自で手配・負担してください。詳細は、e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』で確認ください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	事前学習の回である科目115を必ず視聴の上参加するようにしてください。また、科目 102 を復習しておくといでしょう。				
自己紹介	科目110と科目 105 に同じ。				
受講生へ一言	五感を研ぎ澄まし、全身で奄美の環境文化を学び、大いに語り合しましょう！				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群4	環境文化実習				
科目番号	117	科目名	行政・奄美環境文化総合討論5	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員				
目的・内容	本講義は、「奄美環境文化実習1(沖永良部島)」(科目 118)に向けた事前学習です。講義では、これまで学んできた科目群1～科目群3の内容を振り返り、「奄美環境文化実習1」の目的、内容、方法等について確認することを目的とします。講義では、講師の解説に加えて、受講生同士の意見交換を通して、実習に期待することや留意すべき点等について共通理解をはかります。				
受講方法	☒ オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	これまでの講義、特に科目 105、科目110、科目112の「奄美の環境文化の基礎」シリーズ、および、科目 102「生涯学習支援論」と科目 103「社会経営論」について復習しておくといでしょう。				
自己紹介	科目110と科目 105 に同じ				
受講生へ一言	奄美環境文化実習に臨む直前のオンライン双方の授業となります。実習の目的や内容の詳細のほかに、当日の集合や解散時間等のスケジュールについても確認しますので、ぜひ参加するようにしてください。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群4	環境文化実習				
科目番号	118	科目名	奄美環境文化実習2(沖永良部島)	時間数	16 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修 ・ 伊地知裕仁				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 和泊町歴史民俗資料館・元学芸員				
目的・内容	実習の目的は、座学の講義で修得した〈環境文化〉に関する学知(学際的な知識/科学知)を実際に島に訪れて、身体感覚をもって確認し、〈環境文化〉理解の深め方と生かし方について実地で学ぶことです。実習では、今後の行政施策という観点から、〈環境文化〉の価値を理解し、その生かし方について、島・シマ毎の個性を踏まえたうえで、共通の課題や連携の在り方についても模索します。 実習では、目に見えない世界である島民の心性に触れながら、次の事柄を体験的に学習します。①島・シマの自然の地理特性と歴史を知る、②生きた環境文化を体験する、③人と出会う(想いを知る)、④想いや考え・学びを共有する。また、環境文化は、過去のみを継承するだけでなく、現代に合わせて創造していくことが求められており、島・シマがこれから考えていくべき課題や論点を取りあげ、受講生が島民と共に考える機会を用意します。				
受講方法	☒ 対面授業 現地集合、現地解散となります。移動手段や宿泊は、各自で手配・負担してください。詳細は、e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』で確認ください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	事前学習の回である科目117を必ず視聴の上参加するようにしてください。また、科目 102 を復習しておくといでしょう。				
自己紹介	科目110と科目 105 に同じ				
受講生へ一言	五感を研ぎ澄まし、全身で奄美の環境文化を学び、大いに語り合いたい！				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	119	科目名	持続可能な地域経営1 ー人口の安定するシミュレーションー	時間数	1.5 時間
担当講師	藤山 浩				
所属・職名	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所・所長				
目的・内容	テーマ「自治体と地区の定住戦略を考える」 持続可能な地域経営を、地域人口の安定化を考える中で具体的に考えていきます。実際に奄美 12 市町村の人口分析例とその診断手法を紹介し、その違いや特色を解説します。そして、全国の先進事例を紹介する中で、長期的な地域人口の安定化を実現する道筋を考えていきます。				
受講方法	☒島集合(対面)授業 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の 5 つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5 つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講師は、奄美大島会場から参加します。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	●「田園回帰1%戦略 ー 地元にと仕事を取り戻すー」、2015 年、藤山 浩 著 ●「『地域人口ビジョン』をつくる」、2018 年、藤山 浩 編著 ●「日本はどこで間違えたのか〜コロナ禍で噴出した「一極集中」の積弊」、2020 年、藤山 浩 著、河出書房新社				
自己紹介	1959 年、島根県益田市生まれ。一橋大学経済学部卒業。博士(マネジメント)。 島根県中山間地域研究センター等を経て 2017 年より現職。2023 年度より上越市創造行政研究所所長を兼務。総務省地域力創造アドバイザー他、国・県委員多数。専門は、中山間地域政策、未来社会論、地域計画、地域分析(人口・経済)、地域づくり支援。				
受講生へ一言	故郷の島根に帰り、そこから全国を巡り、持続可能な地域社会づくりを呼び掛けています。奄美は、「小さな小宇宙」のような集落(シマ)ごとの循環圏が息づいていますね。私は、世界は無数の地元で出来ている。だから、強くて美しいと信じています。地元で記憶と風景を伝えていきましょう！				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	120	科目名	持続可能な地域経営総合討論 1 (実習&討論)	時間数	1.5 時間
担当講師	藤山 浩 ・ 小栗 有子				
所属・職名	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所・所長 鹿児島大学法文学部・教授				
目的・内容	科目119「持続可能な地域経営1ー人口の安定するシミュレーション」の講義を踏まえ、実際に自分が暮らす奄美地域の市町村の人口分析シートを自分のパソコンで動かす中で、研修生自ら人口安定化のシナリオづくり(具体的な男女年代ごとの定住増加目標設定など)を実習します。そして、その成果をお互いに発表、共有していきます。				
受講方法	☒ 島集合(対面)授業 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の 5 つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5 つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講師は、奄美大島会場から参加します。 <u>※事前に送信する市町村ごとの人口分析シートを自分のパソコンにダウンロードした上で、当日そのパソコン持参で参加ください。</u>				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	●「田園回帰1%戦略ー地元にと仕事を取り戻すー」、2015 年、藤山 浩 著 ●「『地域人口ビジョン』をつくる」、2018 年、藤山 浩 編著 ●「日本はどこで間違えたのか〜コロナ禍で噴出した「一極集中」の積弊」、2020 年、藤山 浩 著、河出書房新社				
自己紹介	科目 119 と同じ。				
受講生へ一言	科目 119 と同じ。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	121	科目名	持続可能な地域経営2 ー所得を取り戻す地域内循環ー	時間数	1.5 時間
担当講師	藤山 浩				
所属・職名	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所・所長				
目的・内容	テーマ「地域経済循環を創出する～地元への所得効果を確認する」 地方の市町村では、域外からの食料やエネルギー、原料、サービスへの依存度が高まっています。そのため、せっかく稼いだ地元の所得の多くが「穴の開いたバケツ」のように漏れ出している事例がよく見られます。地域の経済循環の現状と課題をデータや全国事例を基にわかりやすく解説し、これから地域内経済循環を強化していく中で、地元へ所得を取り戻していく方策を解説します。				
受講方法	☒島集合(対面)授業 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の 5 つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5 つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講師は、徳之島会場から参加します。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	●『『小さな拠点』をつくる』、2019 年、藤山 浩 編著 ●『『循環型経済』をつくる』、2018 年、藤山 浩 編著 ●「日本はどこで間違えたのか～コロナ禍で噴出した「一極集中」の積弊」、2020 年、藤山 浩 著、河出書房新社				
自己紹介	科目 119 と同じ。				
受講生へ一言	科目 119 と同じ。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	122	科目名	持続可能な地域経営総合討論2	時間数	1.5 時間
担当講師	藤山 浩 ・ 小栗 有子				
所属・職名	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所・所長 鹿児島大学法文学部・教授				
目的・内容	科目121「持続可能な地域経営2－所得を取り戻す地域内循環」の講義を踏まえ、実際に各市町村でヒアリング調査した事例に基づき、地域内経済循環の効果を算出する実習を行います。そして、その成果をお互いに発表、共有していきます。				
受講方法	☒ 島集合(対面)授業 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の 5 つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5 つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講師は、徳之島会場から参加します。 ※7 月の「持続可能な地域経営」の講義時に説明・配布したヒアリングシートと演習シートを自分のパソコンにダウンロードいただき、ヒアリングシートに所定の結果をまとめた上で、当日パソコン持参でご参加ください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	●『『小さな拠点』をつくる』、2019 年、藤山 浩 編著 ●『『循環型経済』をつくる』、2018 年、藤山 浩 編著 ●「日本はどこで間違えたのか～コロナ禍で噴出した「一極集中」の積弊」、2020 年、藤山 浩 著、河出書房新社				
自己紹介	科目 119 と同じ。				
受講生へ一言	科目 119 と同じ。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	123	科目名	地域博物館と自治体誌の活用	時間数	1.5 時間
担当講師	農中 至 ・ 高梨 修				
所属・職名	法文学部法経社会学会・准教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員				
目的・内容	この講義は、奄美〈環境文化〉を考える際の手引きとなる自治体誌(集落誌、字誌、自治体誌、郷土誌(史))の活用方法および地域博物館が地域の未来を見通す際にどのような意義を持つのかを考える内容です。自治体の政策立案に資する地域博物館と自治体資料の有効な活用方法を理解することを目的とします。				
受講方法	☒ 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、全部で5～7本(各5分～12 分程度)あります。関心のあるテーマから自由に選択し、期間内(地域博物館と自治体誌活用総合討論の前まで)に、総時間数 1.5 時間以上を視聴してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	名瀬市大熊壮年団編『大熊誌』名瀬市大熊壮年団、1964 名瀬市誌編集委員会編『名瀬市誌』名瀬市、1968 小林文人・島袋正敏編『おきなわの社会教育』エイデル研究所、2002 末本誠『沖縄のシマ社会への社会教育的アプローチ』福村出版、2013				
自己紹介	専門は、社会教育学と社会教育史です。中央に対する地方の社会教育の動態に関心があり、戦後の社会教育なるものが今日までどのように推移・変化してきたのかを研究しています。2010 年台半ばから本格的に奄美・沖縄の占領期社会教育・青年団の研究に着手しはじめたところです。				
受講生へ一言	日常の暮らしと生活、労働のなかで見過ごしがちな地域の資料や記憶保管施設(地域博物館)にあらためて出会いなおすことで、これからの社会づくり・地域づくりを展望していけるような発想を獲得していきましょう。未来を見据えるためには過去を振り返る必要があります。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	124	科目名	地域博物館と自治体誌の活用 総合討論	時間数	1.5 時間
担当講師	農中 至 ・ 高梨 修				
所属・職名	法文学部法経社会学会・准教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員				
目的・内容	この講義は、科目 123 を踏まえた総合討論になります。地域博物館と自治体誌（自治体および集落の記録群）の活用をめぐって、どのような理想的な方法があるか、地域においてどのような館と資料の活かし方があり得るのか、諸資源を自治体政策形成にどのように結びつけるのかを総合的に議論していくことを目的とします。				
受講方法	☒ オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 （ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します） ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	科目 123 と同じ。				
自己紹介	科目 123 と同じ。				
受講生へ一言	科目 123 と同じ。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群2	環境文化と行政施策をつなぐ				
科目番号	125	科目名	環境文化から考える福祉	時間数	1 時間
担当講師	小栗 有子ほか				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授				
目的・内容	この講義は、これまで学んできた奄美〈環境文化〉の考え方や理解を行政施策にどのように生かすことができるかについて、様々なアイデアを得ながら考えることができるようになることを目的としています。講義では、奄美群島の自治体で長年福祉行政の実務に携わってきた方にインタビューを行うことを通して、次に挙げる内容を考えていきます。 ・奄美〈環境文化〉の考え方や理解の視点に立つと、行政施策としての福祉の見え方や取り組み方はどのように変わるのだろうか。 ・奄美〈環境文化〉の考え方や理解を深めることで、行政施策にどのように影響を与え、どのような効果を期待することができるか。 ・奄美群島間の比較を通して見えてきた出身の自治体や島の特性や個性を行政施策にどのように生かしていったらよいだろうか。				
受講方法	☒動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、各10分程度の動画が4～7本あります。順番にそって期間内に視聴してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	講義の中で紹介します。				
自己紹介	科目101と同じ インタビュー対象者は、講義中に紹介します。				
受講生へ一言	科目101と同じ				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群2	環境文化と行政施策をつなぐ				
科目番号	126	科目名	環境文化から考える観光まちづくり	時間数	1 時間
担当講師	小栗 有子ほか				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授				
目的・内容	この講義は、これまで学んできた奄美〈環境文化〉の考え方や理解を行政施策にどのように生かすことができるかについて、様々なアイデアを得ながら考えることができるようになることを目的としています。講義では、奄美群島の自治体で行政経験を持ちながらシマの観光まちづくりに携わる方にインタビューを行うことを通して、次に挙げる内容を考えていきます。 ・奄美〈環境文化〉の考え方や理解の視点に立つと、行政施策としての観光まちづくりの見え方や取り組み方はどのように変わるのだろうか。 ・奄美〈環境文化〉の考え方や理解を深めることで、行政施策にどのように影響を与え、どのような効果を期待することができるか。 ・奄美群島間の比較を通して見えてきた出身の自治体や島の特性や個性を行政施策にどのように生かしていったらよいだろうか。				
受講方法	☒動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、各10分程度の動画が4～7本あります。順番にそって期間内に視聴してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	講義中に紹介します。				
自己紹介	科目101に同じ。 インタビュー対象者は、講義に紹介します。				
受講生へ一言	科目101に同じ。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群2	環境文化と行政施策をつなぐ				
科目番号	127	科目名	環境文化から考える地域	時間数	1 時間
担当講師	小栗 有子ほか				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授				
目的・内容	この講義は、これまで学んできた奄美〈環境文化〉の考え方や理解を地域の政策や施策にどのように生かすことができるかについて、様々なアイデアを得ながら考えることができるようになることを目的としています。講義では、奄美群島の自治体長(予定)にインタビューを行うことを通して、次に挙げる内容を考えていきます。 ・奄美〈環境文化〉の考え方や理解の視点に立つと、地域政策の見え方や取り組み方はどのように変わるのだろうか。 ・奄美〈環境文化〉の考え方や理解を深めることで、地域政策にどのように影響を与え、どのような効果を期待することができるか。 ・奄美群島間の比較を通して見えてきた出身の自治体や島の特性や個性を地域政策にどのように生かしていったらよいだろうか。				
受講方法	☒動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、各10分程度の動画が4～7本あります。順番にそって期間内に視聴してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	講義中に紹介します。				
自己紹介	科目101に同じ。 インタビュー対象者は、講義に紹介します。				
受講生へ一言	科目101に同じ。				

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

シラバス

科目群2	環境文化と行政施策をつなぐ				
科目番号	128	科目名	環境文化から考える 奄美群島振興開発	時間数	1 時間
担当講師	小栗 有子ほか				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授				
目的・内容	この講義は、これまで学んできた奄美〈環境文化〉の考え方や理解を行政施策に生かすという観点から奄美群島振興開発（法制度・計画・基金）の歴史と現状について理解を深めます。そのことを通して、奄美群島振興開発の特徴を踏まえ、奄美群島の未来を見据えながら今後の生かし方についての考えや方法について検討します。講義では、奄美群島振興開発に実務者として携わってきた方へのインタビューを通して、明らかにしていきます。				
受講方法	☒ 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、各10分程度の動画が4～7本あります。順番にそって期間内に視聴してください。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	講義中に紹介します。				
自己紹介	科目101に同じ。 インタビュー対象者は、講義に紹介します。				
受講生へ一言	科目101に同じ。				